

患者中心の医療を学ぶウェブセミナー

「小児用製剤の課題と展望」 大人の都合で子どもの薬を おざなりにしてはいけない!!

**2020年12月15日（火）
午後7時00分～9時00分**

ZOOMによるウェビナー

演者

原田 努さん

昭和大学 薬学部
基礎医療薬学講座 准教授



参加費無料 定員100名

参加申し込み： info@jppac.or.jp

氏名、所属、お立場を記入ください
後日、**URL**、パスワードをお送りします。



日本における小
児用製剤の課題
と解決に向けて

小児用製剤をめぐる、医
療機関とメーカー間にあ
る課題とは？

研究開発における小児用
製剤特有の課題とは？

共に学び、
共に考えよう！

主催：
NPO法人 患者中心の医療
を共に考え共に実践する協
議会

協力：
一般社団法人 ピーベック

医薬品産業イノベーション研
究会

日本では小児に使用される医薬品の約70 %が、添付文書に小児の用法用量が記載されておらず、十分な安全性の確認がなされていない薬を医師の裁量で使用しているのが現状である。小児用の剤形が用意されている製品はさらに少ない。

錠剤をそのまま飲む大人は知らない。用量調節のために粉碎した錠剤がとんでもなく苦いことを！子ども達には飲みやす薬を選ぶ余地も権利もほとんどないのである。

欧米より大幅に遅れを取っている小児薬の開発 日本における小児適応のある新薬の数は 欧米の約5分の1である↓(EMA231225/2015より)

Table 4. New paediatric medicines and indications per region (2007 to 2015)

Region	EU*	US	Japan	Canada
New paediatric medicines	80	76	12	38
New paediatric indications	141	173	38	107
Total	221	249	50	145

10-year Report to the European Commission

General report on the experience acquired as a result of the application of the Paediatric Regulation¹

欧州小児製剤イニシアティブでは産官学が連携して
子どもの薬の開発研究に力を入れている



The European Paediatric Formulation Initiative (EuPFI) よ
り

原田努さんのプロフィール

1992年大阪府立大学大学院、化学工学科修了。

同年エーザイ(株)入社。

患者さんが服用しやすい製剤の開発に注力し、デザートのような内服ゼリー剤を世界で初めて開発。

2014年にバイオジェン・ジャパン(株)に転籍し、患者アドボカシーマネージャー。

2015年より現職。

小児薬に関しては、日本薬剤学会の小児製剤フォーカスグループリーダー、国立研究開発法人日本医療研究開発機構「小児医薬品の早期実用化に資するレギュラトリーサイエンス」研究開発分担を担っている。

私たちは「患者協働の医療」の実現のために活動するネットワークです。

あなたの参加を心待ちにしています。

